

## 会議結果報告書

1. 会 議 名 令和5年度 第7回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 令和6年2月2日（金）9：30～11：30
3. 場 所 印西市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：山崎会長、岩井委員、川井委員、國武委員、小山委員、富川委員、  
橋本委員、福井委員、渡辺（壽）委員、渡辺（統）委員

事 務 局：海老原保全係長、清田主査補、及川主事

5. 傍 聴 者 0 名
6. 配布資料
  - ・会議次第
  - ・資料1 令和5年度版印西市環境白書（案）

### 7. 内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 議題

#### ①令和4年度の環境施策の進捗状況について

—事務局より、令和4年度の環境施策の進捗状況について報告—

会 長：ただいまの事務局からの報告について、ご意見ご質問等があればお願いします。

委 員：28 ページの 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進の右側のグラフ「印西クリーンセンターごみ質分析」とあるが、何に対する比率のグラフか。

委 員：ごみ質分析で調べたもので、水分を除いた重さの比率となっている。

委 員：今の説明のように、何に対する比率かが分かるコメントを記載していただきたい。また、30 ページの温室効果ガス排出量の経年変化を見ると、業務その他部門だけが増えている。データセンターとデータセンター以外を分けた数値は把握できるか。

事務局：大規模な事業者については別個に排出量が把握可能で、大規模事業者の排出量のうち業種分類別にも見ることができる。業種分類のうち、情報処理業中にデータセンターが該当するため、それとそうでない分類を仕分けることで、データセンターの分を見ることができると考える。この場では難しいが、業務その他部門のうち大規模な事業者があつて、大規模事業者のうち情報処理部門の量は把握可能と考える。

委 員：そういう数字が出てくると、データセンターが少なからず大きく影響しているといった傾向が分かると思うため、公表しなくても、せめてここだけではデータセンターの内訳を示して欲しい。

委 員：印西市の排出量と出ているが、全部が計ったものではない。全国平均の値を人口比で割っているようなもので、実際に計っている市町村はないと思う。

事務局：環境基本計画の 134 ページの資料 8 に温室効果ガスの算定方法を掲載しており、ほとんどがご指摘のとおり按分法などによる一般的な算定方法であるが、データセンターなどのような大規

模な排出量については、その会社のエネルギー使用量などに基づく実績値を引用している。

委員:5 ページや 12 ページに里山保全回数が 17 回とあるが、私たちの会だけでも、年に 50 回以上活動しているため、この保全回数に関する注釈を記載されたい。また、農地の転用面積について、市街化調整区域がどんどん宅地化されている事実がある。今、印西市では 40 戸以上、その規模で建物を建てる契約をすれば農地が簡単に転用でき、あるいは 6m 幅の道路がニュータウンに設置してれば簡単に農地が転用される状態にある。例えば 12 ページの農地の保全の真ん中辺りで「令和 4 年度における農地面積が本市の 38.8%を占めていますが、住宅用地等への転用も進んでいます」とある。もちろん農家さんのもう畑ができないという理由はあるにせよ、どういう制度によってこういうことができるのかを市民に知らせて欲しい。

事務局:里山保全回数の記載について、市が実施したもので 17 回となっている。上の文章にも記載があるが、グラフにも注釈を記載することについて検討したい。農地転用については、関係課と文言を調整したい。

委員:32 ページの環境指標の状況と評価における市域の温室効果ガス排出量について、データセンターや人口が増えている中で、中間目標を現状以下とするのは非常に難しい面もあると思う。例えば人口比、1 人当たりの排出量といった評価指標を検討してはどうか。

事務局:今回の環境基本計画は、令和 3 年度の策定時点での情勢も踏まえて、46%削減の削減目標を設定したため、現時点で指標を見直すことは難しいと考える。しかし、来年度以降に、地球温暖化対策実行計画の見直しを考えているため、いただいた意見を参考にしながら、目標達成のために必要な指標について検討していきたい。

委員:20 ページのグラフに光化学オキシダント「OX」とある。また、右の備考に「光化学スモッグ注意報は、一時間値が 0.12ppm を超えるもの」とあるがグラフには 0.06ppm を超えた日数についても記載されている。そのほか、31 ページの表に V2H 充放電設備とある。これらには、より詳細な説明を記載いただきたい。

事務局:意味がわかりづらい言葉については、用語解説を整理していきたい。

委員:21 ページの本文にあります上から 6 行目、「印旛沼がワースト 2 という結果でした。」とありながら、総評、今後の方向性には、ワースト 2 であることに特段のコメントがないと思う。

事務局:意見を踏まえて、総評の記載について、検討させていただきたい。

委員:ワースト 1 の湖沼はどこにあるか。

委員:宮城県の伊豆沼が COD14 でありワースト 1 となっている。

委員:一概に印西市だけの原因と言えないが、周辺関連市町村と協議会のような取組は実施しているか。

委員:千葉県が主体となって実施しており、もう何十年も改善しようと努力している。

委員:それでは、手賀沼については手賀沼水質保全協議会、印旛沼については印旛沼のそれがあって、取り組んでいるといったことを記載してはどうか。

事務局:記載を検討したい。

委員:8 ページ基本目標 1 について、「自然環境調査による現状把握を進めるとともに、緑や水辺とのふれあいの機会の充実を図り、自然環境保全の意識の向上に努めています」とあるが、自然環境調査で実態を知ること、あるいは市民のふれあう機会それと意識向上、これらで本当に良い

のか疑問に思う。また、13 ページの総評、今後の方向性に記載してもいいかもしれないが、今、市民団体では 30by30 に向けて OECM について検討を進めたらどうかという話もあり、その辺の記載についても検討して欲しい。9 ページの基本目標のパートナーシップについて、今、印西市に Google や Amazon などの大手企業が進出してきていることから、企業との提携も今後視野に入れていくことが必要と思い、企業との提携を図ることに関する記載を検討して欲しい。18 ページに景観まちづくり推進に向けた取組があるが、例えば里山景観に繋がるようなことは、提言されて何か実行されるようなことがあるか。

事務局:景観まちづくり市民懇談会などでの取組検討過程を現時点で把握していないため、確認して後日回答したい。また、30by30 などについては、文言を検討したい。

委員:去年の環境白書の第 1 章に 30by30 の話が載っていたが今年はどうのような内容か。

事務局:第 1 章の環境特集は、事務局で毎年、前年と重複しないテーマを選び掲載しており、今年度はプラスチックごみについて掲載を予定している。

委員:30by30 は非常に大事なもので、記載して欲しい。今回資料の最後の環境配慮行動の推進というところにも、東邦大学の話や武西の里山での話とか 30by30 に関連のある話もあるため、検討して欲しい。

会長:時間のため、この場で発言できなかった方は、メールなり直接口頭で質問して欲しい。

## ②環境基本計画の推進に係る市民会議の取組について ーグループごとの検討ー

(4) その他

(5) 閉会

以上

令和 5 年度第 7 回印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和 6 年 3 月 22 日

印西市環境推進市民会議 委員 川井 正幸

印西市環境推進市民会議 委員 國武 悠人